

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371500642		
法人名	有限会社 アメニティホーム		
事業所名	アメニティホーム本郷 3F		
所在地	愛知県名古屋市長区高柳町323-1		
自己評価作成日	令和3年12月10日	評価結果市町村受理日	令和4年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2371500642-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市熱田区三本松町13番19号		
聞き取り調査日	令和4年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においてご家族との面会は自粛させて頂きましたが、機会のあるごとに直接お会いしたり電話やお手紙にて近況報告を行うよう努めています。 ・自立した生活が送れるよう身体状態に合わせ出来る事を行っていただいたり、外出の代わりにして、屋上で洗濯物干し等を行う事で気分転換を図るよう努めています。 ・対面式キッチンで調理を行い、食事ができる匂いを感じて頂き家庭的な雰囲気の中で温かく出来立ての食事を召し上がっていただいています。 ・敷地内の畑で植付け・収穫を一緒に行い、旬の野菜を楽しんでいただいています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>◎軽減要件適用事業所</p> <p>今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。</p> <p>①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」</p> <p>②軽減要件確認票</p> <p>③目標達成計画</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「私たちは利用者様の気持ちを大切にします」「私たちは利用者様の自立生活援助を行います」を玄関・フロア内に掲示し、常に職員全員が皆確認し意識付けできるようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会・子ども会に入会しています。コロナ感染予防の為、地域の行事には参加できませんでしたが、子ども会による子供お神輿には参加できました。公園に行ったり散歩に出かけた際には声掛けや挨拶等を行い、地域の方と親しい関係が持てる様心掛けています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議等を通じて地域の人達に直接発信したいと思いましたが、コロナ禍の為又狭いスペースでの集りが出来ず、回覧板等を通して理解を深めて頂ける様発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍の為、運営推進会議で人が集まって行えなかった為、文書を通して意見を聞いたり報告を行うよう努めています。また推進委員の訪問時に意見等を聞くように努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	特に今年はコロナ感染予防の為、保健所に相談したり、市区の担当者等にサービス内容についてその都度相談し、連携を図るよう努めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束にはどのような事が含まれるかを研修やその都度話し合う事で、職員全員が同じ理解のもとで身体拘束をしないケアを行えるよう努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	社内研修やカンファレンスで「虐待防止」について学んだり、話し合いを行い意見交換を通して虐待が見過ごされないように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者が必要とされる際には支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	施設見学～契約時に契約内容の説明を行っています。また入所後もご家族の訪問時や電話での契約等に関するお問い合わせには、その都度説明させていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会が、なかなかできない状況の中、電話連絡や毎月の手紙等で利用者様の様子を伝えたり、意見や要望を積極的に聞き取り、ご家族とのコミュニケーションにつとめています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃より意見を言いやすい雰囲気作りに努め、毎日の申し送り時やカンファレンスの機会に、日々の業務を通して困っている事や提案等に積極的に耳を傾け、運営に少しでも反映出来るよう取り組んでいます。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	仕事に関する評価は、ボーナスに反映している。各々の家庭事情に合わせた勤務体制をとっている。マスクや消毒液など備品の充実を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社外研修については、研修内容を職員全員に提示し申し込み出来るようにしていますが、コロナ渦でリモートであったり抽選に当たらなったりで受ける機会がありませんでした。社内研修は定期的におこなっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者と直接交流は出来ていません。電話等で交流するよう努力していますが、今後コロナも落ち着き次第勉強会や相互訪問等を通してサービスの質のより向上出来るように努めます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所時の情報をもとに、ご本人の思いや要望を会話や観察等を通して汲み取り、ご本人が安心して暮らせるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前にご家族の思いや話等を傾聴し、安心して入所して頂ける様に努め、入所後も面会や電話・手紙を通してご本人の生活状況や健康状態をお伝えした上で、ご家族の思いや要望等を伺っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	医療機関等も含め、身体的・精神面の両方から判断するよう努めています。他のサービス利用(福祉用具・歯科・マッサージ・美容等)においても必要に応じて対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様それぞれの状態に合わせて、利用者様の自立的な生活援助を行う上でも一緒に出来る事(洗濯物干し・畳み、配膳、片付け等)を行う事によりお互いに支え合う関係を築くように努めています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月の手紙・電話等で変化の有無に関わらず、利用者様の日々のご様子や会話等を通してご家族への思いを伝えたり、行事等で撮った写真をご家族に送付したりご家族との写真を身近に置き、機会あるごとにご家族のお話をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族、親戚、友人等の面会が制限されていたため、NHK回想法ライブラリーのDVDを借り、昔の暮らし・道具・家・日本各地等の映像を見ながら思い出を語り合える機会を積極的に取り入れています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様のそれぞれの性格を把握し、座席の位置を配慮したり、レクリエーションやお手集い等と一緒に出来るようすることにより、お互いに関わり合い、支え合える関係が出来るよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	病気等で入院・退所後ご家族とその後の経過等の連絡を取り合い、必要に応じて相談や支援を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所時にご本人やご家族から思いや希望・以降を伺っている。入所後は会話や行動等からご本人の希望や以降等をスタッフ全員で共有できるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時にご家族やケアマネジャー等からそれまでの生活歴を伺い、ご本人の希望や意向に沿うよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	カンファレンスや日々の申し送り等でモニタリングを行い、現状のADL状況を等をスタッフ全体で把握するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日常や定期モニタリングで利用者様の現状や課題を話し合い検討したうえで、ご本人やご家族等の思いや希望を出来る限り計画書に反映するよう努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の状態や気付いた事等を生活記録や申し送りノートに書き、最新の情報をスタッフ間で共有しています。またカンファレンスや日々の申し送り等で意見交換を行い、ケアに実践するよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	必要に応じて歯科医・訪問マッサージ・美容等のサービスを行っています。また通院時や入院時は利用者様に付き添い、状態報告を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会に入会し、子ども会に寄付を行い地域との繋がりは持っていますが、コロナ渦の為、地域の行事には参加できていない状況である。昨年と同様近くの公園の散歩時に遊びに来ている子供たちと交わる事が現在の楽しみです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月4回の定期訪問や異変時の訪問を含め随時電話での対応・指示がある。利用者様の状態に応じて直接主治医からご家族へ説明したり、他病院への紹介状等を書いてもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	月4回の定期診察前には利用者様の状態について報告・連絡・相談を行っている。日々においても体調不良時等は電話や直接病院に出向いたり、来所してもらい、医師の指示のもと適切な処置を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には必要に応じて付き添い、日常生活について上院側に説明しています。またお見舞いに伺ったり、病院側と退院に向けてDrやケースワーカーと家族を交えて話し合いを行うよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時に説明している。入所後状態の変化によりご家族・主治医等を交えて対応を検討し、スタッフ全員が申し送りやカンファレンス時に情報交換し共有し支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	社内研修において勉強会を行い、その都度主治医・看護師・薬剤師から応急処置・対応の指示を受け、実践に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回新日本コーポレーションの協力のもと利用者様と職員にて避難訓練(消火器使用あり)を行っています。コロナ渦の為地域との協力体制は課題となっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様やご家族の思いや気持ちに真摯に耳を傾け、不快にならない言葉使いや排泄・行為の際には周囲～見えないようにするなどの対応をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中で利用者様の思いや希望を聞き、余暇の過ごし方・衣類の選択・座席の位置・献立・就寝時間等について可能な限り自己けてを尊重し実現できるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々の体調や気分等を確認の上、食事・排泄・入浴・レク活動・お手伝いなどを行う際には、声掛けし無理強いないでその人らしい生活ができる様支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	室温・季節や体調等を確認の上、自分で選べる利用者様には一緒に選んでもらい、自分で選択出来ない方は、ご家族等の意見を伺うようにしています。装飾品や化粧品等は好みの物を購入したり、ご家族に持ってきていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立・盛り付け・配膳・片付け・テーブル拭き等を無理のない範囲で一緒に行っています。職員が利用者様と一緒にテーブルで食事を摂り、会話をしながら、それぞれのペースで食事を楽しんでもらっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	記録に食事・水分量、食事内容を記入し、また嚥下状態や体調等を考慮の上、必要に応じた水分補給、トロミ剤、好みの飲料水、Drや薬剤師の指示による栄養補助食品・飲料を使用しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	起床時・毎食後に利用者様それぞれの状態に合わせた口腔ケアを行っている。口腔内の清潔保持のため、定期的に歯科医による検診・治療・義歯調整等を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	利用者様それぞれの排泄状態を記録し職員全体で把握、尿意があるなしに関わらずトイレで排泄できるよう努めている。排泄状況を把握した上で、リハパン・オムツ・パットの必要性について職員全体で検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄・生活記録で毎日の排便・水分摂取量を職員全体で把握し、Drにも定期的に状況を報告し、必要に応じて薬が処方されている。食事にヨーグルトや繊維質の物を取り入れたり、ラジオ・機能体操などの運動も毎日行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	利用者様のその時々体調・気分等を考慮し、ご本人の希望に沿うよう努めている。又入浴剤を使用したり、しょうぶ湯・ゆず湯など季節を感じてもらったり、個浴であることでゆっくり・ゆったりと入浴を楽しんでもらえるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者様の睡眠状態・心身状態等を把握し、必要に応じて日中に休息を取ってもらったり、寝具の調整・音や照明・室温調整、排泄介助などに努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者様の最新の薬事情報を職員全体で確認できるようにしています。また利用者様個々の服薬状況(飲み込み・心身状態等)を毎回観察・確認し情報共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	各利用者様の得意・不得意を考慮しながら、無理のない範囲でレク活動やお手伝いに活かし、役割を持ってもらったり、楽しんでもらえるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の中で、以前出掛けていた喫茶店やお花見などには出かけられませんが、近くの公園や1階や屋上での外気浴は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者様間のトラブルに発展する可能性がある為、金銭管理は行っていない。お金の心配をされる利用者様へは金銭管理状況(ご家族が管理)を伝えています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者様の希望があれば対応している。また普段の会話などから思いを汲み取り、職員から家族に伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアー全体を利用者様が移動しやすいようにテーブル島を設置し、不必要なものは置かないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う人同士でゆっくり過ごせる様2~3人掛けのソファを設置している。食事・余暇・手伝い等の際には座席の位置を状況に合わせてその都度変えるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様・ご家族と相談しながら希望する時は、テレビ・家具などを設置したり、使い慣れた食器やカバン等を使用し、自室に家族や友人等の写真等を飾ってもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレにはトイレ案内掲示、洗面所には名前を記入した口腔ケアセットを手の届く場所に設置し、手すりや椅子を利用し、安全に歩行できる等の環境作りを行う事で自立した生活が送れるよう努めています。		